令和元年度公営企業資金不足比率審査意見 (参考資料)

資金不足比率の対象

		•	般 会 計			
	特別会計		土地区画整理会計			
<u></u>			市有林会計			
般会計等			市営墓地会計			
等	复言	<u>}</u>	病院事業債管理会計			
			学校給食費会計			
			母子父子寡婦福祉資金貸付事業会計			
	公営企業		<i>></i> /4-	水道事業会計		
		法適用	下水道事業会計			
			農業集落排水事業会計	資 金		
分		営企業	営企業		中央卸売市場会計	資金不足比率
営事			法非	公設地方卸売市場会計	比 率	
公営事業会計		適用	大森山動物園会計			
μΙ				廃棄物発電会計		
	0	そり 1 <u>1</u>	国民健康保険事業会計			
	6 年	き	介護保険事業会計			
	4	in 字 十	後期高齢者医療事業会計			
		·部事	· 務組合等			

損失補償をしている法人等 ※2

※1 秋田県市町村総合事務組合 秋田県市町村会館管理組合 秋田県後期高齢者医療広域連合

※2 対象法人等なし

資金不足比率

資金不足比率は、事業の規模に対する公営企業ごとに算定する資金の不足額の割合で、次の算式による。

当年度は、全公営企業会計において資金不足額が生じていないため、審査意見の表中では資金不足比率の表示は「-」となる。

なお、参考としての比率を求めることとする。

(1) 地方公営企業法適用企業

水道事業会計 (単位:千円、%) 項 目 30年度 元年度 増 減 増減率 資金剰余額 A=B-C-D 11, 291, 154 11,668,099 376, 945 3.3 流動資産等 (a-b) 376, 550 2.9 12, 837, 243 13, 213, 793 a 流動資産 12, 837, 243 13, 213, 793 376, 550 2.9 翌年度に繰り越した事業の財源に充当で b きる特定の収入で、当該年度に収入され 0 た部分に相当する額 C 流動負債等 (c-d) 1,546,089 1, 545, 694 $\triangle 395$ $\triangle 0.0$ c 流動負債 2, 989, 359 3,051,624 62, 265 2.1 流動負債に計上されている企業債で建設 1, 443, 270 1,505,930 62,660 4.3 改良費等に充てるためのものの額 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 事業の規模 E=F-G $\triangle 0.4$ 6, 353, 746 6, 328, 708 △25,038 営業収益の額 6, 445, 350 6, 450, 719 5, 369 0.1 33.2 G 受託工事収益の額 91,604 122,011 30, 407

資金不足比率(参考)△A/E	△177.7	△184. 3	△6. 6	_
----------------	--------	---------	-------	---

下水道事業会計 (単位:千円、%)

「小たす水ム山			(
項目	30年度	元年度	増減	増減率
資金剰余額 A=B-C-D	4, 137, 353	4, 562, 187	424, 834	10.3
B 流動資産等 (a-b)	6, 022, 115	5, 603, 860	△418, 255	△6.9
a 流動資産	6, 069, 315	5, 688, 163	△381, 152	△6. 3
翌年度に繰り越した事業の財源に充当で b きる特定の収入で、当該年度に収入され た部分に相当する額	47, 200	84, 303	37, 103	78. 6
C 流動負債等 (c-d)	1, 884, 762	1, 041, 673	△843, 089	△44. 7
c 流動負債	7, 381, 260	6, 634, 854	△746, 406	△10. 1
d 流動負債に計上されている企業債で建設 改良費等に充てるためのものの額	5, 496, 498	5, 593, 181	96, 683	1.8
D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高	_	_	0	1
事業の規模 E=F-G	7, 108, 989	7, 065, 482	△43, 507	△0.6
F 営業収益の額	7, 108, 989	7, 065, 482	△43, 507	△0.6
G 受託工事収益の額	_	_	0	_

資金不足比率(参考)△A/E	△58. 1	△64. 5	△6.4	_	
----------------	--------	--------	------	---	--

農業集落排水事業会計 (単位:千円、%)

項目	30年度	元年度	増減	増減率
資金剰余額 A=B-C-D	638, 264	640, 331	2, 067	0.3
B 流動資産等 (a-b)	710, 159	679, 060	△31, 099	△4.4
a 流動資産	710, 159	679, 060	△31, 099	△4.4
翌年度に繰り越した事業の財源に充当で b きる特定の収入で、当該年度に収入され た部分に相当する額	_	_	0	_
C 流動負債等 (c-d)	71, 895	38, 729	△33, 166	△46. 1
c 流動負債	374, 877	344, 338	△30, 539	△8.1
d 流動負債に計上されている企業債で建設 改良費等に充てるためのものの額	302, 982	305, 609	2, 627	0.9
D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高			0	_
事業の規模 E=F-G	131, 024	128, 387	△2, 637	$\triangle 2.0$
F 営業収益の額	131, 024	128, 387	△2, 637	△2.0
G 受託工事収益の額	_	_	0	_

資金不足比率(参考)△A/E	△487. 1	△498. 7	△11 6	_
冥壶个足比争(参考) △ A / L	△487.1	△498. 7	△11.6	_

(2) 地方公営企業法非適用企業

中央卸売市場会計			(単位:千	四 %)
項目	30年度	元年度	増減	増減率
資金剰余額 A=B-C-D-E	1, 026	1,000	△26	$\triangle 2.5$
B 歳入額	66, 464	,	$\triangle 4,497$	△6.8
C 歳出額	65, 438	60, 967	$\triangle 4,471$	△6.8
D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高	_	_	0	_
E 翌年度へ繰り越すべき財源	_	_	0	_
事業の規模 F=G-H	18, 956	19, 238	282	1. 5
G 営業収益の額	18, 956	19, 238	282	1.5
H 受託工事収益の額	_	_	0	_
資金不足比率(参考)△A/F	△5. 4	△5.1	0.3	_
公設地方卸売市場会計			(単位:千	·円、%)
項目	30年度	元年度	増減	増減率
資金剰余額 A=B-C-D-E	2,000	2,000	0	0.0
B 歳入額	429, 629	427, 412	$\triangle 2,217$	△0.5
C 歳出額	427, 629	425, 412	$\triangle 2,217$	$\triangle 0.5$
D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高	_	_	0	_
E 翌年度へ繰り越すべき財源	_	_	0	_
事業の規模 F=G-H	146, 819	147, 522	703	0.5
G 営業収益の額	146, 819	147, 522	703	0.5
H 受託工事収益の額	_	_	0	_
資金不足比率(参考)△A/F	△1. 3	△1.3	0.0	_
	<u> </u>	L.	l	
大森山動物園会計		,	(単位:千	·円、%)
項目	30年度	元年度	(単位:千 増 減	増減率
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E	1	21,001	増 道 21,000	増減率 殆増
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額	1 543, 880	21, 001 544, 339	増 道 21,000 459	増減率 発増 0.1
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額	1	21,001	増 道 21,000 459	増減率 発増 0.1
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高	1 543, 880 541, 179 —	21, 001 544, 339 519, 469	増 減 21,000 459 △21,710	増減率 発増 0.1 △4.0
項目資金剰余額A=B-C-D-EB歳入額C歳出額D建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高E翌年度へ繰り越すべき財源	1 543, 880 541, 179 — 2, 700	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869	増 21,000 459 △21,710 0 1,169	増減率 発増 0.1 △4.0 - 43.3
項目資金剰余額A=B-C-D-EB歳入額C歳出額D建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高度E翌年度へ繰り越すべき財源事業の規模 F=G-H	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165	増 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486	増減率 労増 0.1 △4.0 - 43.3 △0.5
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高度 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869	増 減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486	増減率 <u>労増</u> 0.1 △4.0 – 43.3 △0.5
項目資金剰余額A=B-C-D-EB歳入額C歳出額D建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高度E翌年度へ繰り越すべき財源事業の規模 F=G-H	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165	増 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486	増減率 <u>労増</u> 0.1 △4.0 — 43.3 △0.5
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の現在高度 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 —	増 減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 0	増減率 <u>労増</u> 0.1 △4.0 – 43.3 △0.5
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 —	$ \begin{array}{r} 21,001 \\ 544,339 \\ 519,469 \\ - \\ 3,869 \\ 95,165 \\ 95,165 \\ - \\ \triangle 22.0 $	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 △22.0 (単位:千	増減率 労増 0.1 △4.0 - 43.3 △0.5 △0.5 - -
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額 H 受託工事収益の額 資金不足比率 (参考) △A/F 廃棄物発電会計 項 目	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 —	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 —	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 △22.0 (単位:千	増減率
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額 G 営業収益の額 H 受託工事収益の額 F 受託工事収益の額 B 受託工事収益の額 B 受託工事収益の額 B 受託工事収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 — 0. 0	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 — △22. 0 元年度 1	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 ○ (単位: 千増減	増減率 <u>発増</u> 0.1 △4.0 43.3 △0.5 △0.5
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額 H 受託工事収益の額 「資金不足比率(参考)△A/F 廃棄物発電会計 「項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 — 0. 0 30年度 1 357, 231	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 — △22. 0 元年度 1 434, 653	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 △22.0 (単位:千 増減 0 77,422	増減率
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額 H 受託工事収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 — 0. 0	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 — △22. 0 元年度 1	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 ○ (単位: 千増減	増減率 9.1 △4.0 - 43.3 △0.5 △0.5 - - - ·円、%) 増減率 0.0 21.7
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 — 0. 0 30年度 1 357, 231 212, 402 —	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 — △22. 0 元年度 1 434, 653	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 ○486 0 (単位:千増減 0 77,422 222,250 0	増減率
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額 F 受託工事収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 — 0. 0 30年度 1 357, 231 212, 402 — 144, 828	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 — △22. 0 — — — 434, 653 434, 652 — —	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 △22.0 (単位:千 増減 0 77,422 222,250 0 △144,828	増減率
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 — 0. 0 30年度 1 357, 231 212, 402 — 144, 828 209, 423	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 — △22. 0 元年度 1 434, 653 434, 652 — — — — — — — — — — — — —	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 △486 0 (単位:千増減 0 77,422 222,250 0 △144,828 77,226	増減率
項 目 資金剰余額 A=B-C-D-E B 歳入額 C 歳出額 D 建設改良費等以外の経費の財源に充てる ために起こした地方債の現在高 E 翌年度へ繰り越すべき財源 事業の規模 F=G-H G 営業収益の額 H 受託工事収益の額 F 受託工事収益の額	1 543, 880 541, 179 — 2, 700 95, 651 95, 651 — 0. 0 30年度 1 357, 231 212, 402 — 144, 828	21, 001 544, 339 519, 469 — 3, 869 95, 165 95, 165 — △22. 0 — — — 434, 653 434, 652 — —	増減 21,000 459 △21,710 0 1,169 △486 △486 △22.0 (単位:千 増減 0 77,422 222,250 0 △144,828	増減率